

「三笠中学校の寺島宗則記念館探訪の取組」

1. 学校名	阿久根市立三笠中学校
2. 学年・人数	3年生 45人
3. 日時・場所	(1) 学習会等の日時・場所 令和6年5月23日 寺島宗則記念館訪問：総合的な学習の時間
4. 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について	(1) 名称・時代 寺島宗則記念館（てらしまむねのりきねんかん） (2) 特徴等 寺島宗則は、幕末に島津斉彬が提唱した近代化策「集成館事業」において、電信実験や日本初の自家製蒸気機関搭載船「雲行丸」の実用化、反射炉の完成などの大きな役割を果たした。30歳の時に医師兼通訳として幕府遣欧使節団に同行、薩摩英国留学生に随行した。帰国後は、外交や電信の整備など日本の近代化に大きな足跡を残した。寺島の生家「寺島宗則記念館」は、寺島の生涯を通して日本の近代化について学習できる施設である。
5. 活用の取組において地域との連携や工夫した点等	実施計画の作成については、阿久根市商工観光課の協力をいただき行った。訪問時の活動（講話や紙芝居による視聴）については、寺島会の皆さんからの協力をもらい実施した。
6. 取組の様子（研究発表等）	寺島宗則記念館の庭園 講話を聴く生徒の様子
7. 感想・意見 (参加児童生徒・保護者・保存会・教員等)	【生徒】 ・ 日本の近代化で活躍した人が、自分の生まれ育った土地出身者だということを改めてすごいことだと思った。 ・ 100年以上も昔に日本を離れ遠い異国に行った寺島宗則の行動力はすごいと思った。